

令和 6 年度

運営に関する計画

最終評価



大阪市立鶴見小学校

大阪市立鶴見小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・ほとんどの児童がいじめはいけないこととわかっているが、絶対にいけないことであることと理解していく必要がある。
- ・コロナ禍をきっかけに、不登校児童数が少しずつ増えてきている。不登校児童に対する対策を組織的に進めていく必要がある。
- ・基本的な知識・技能は身につけているが、主体的・対話的な学習をさらに進め、発展的な学習を実践していく必要がある。
- ・学習が「わかる」児童の割合は全国平均を上回っている。個に応じた学習を進め、学習が「楽しい」と答える児童の割合を全国平均以上にしていく必要がある。
- ・コロナ禍をきっかけに、C-NETとの関りが減少している。かかわりを増やし外国語に対する親しみが増すようにしていく必要がある。
- ・全国調査の体力合計点では、大阪市の平均を上回っているが、全国平均には届いていない。日常的な運動を体力の向上につなげていく必要がある。
- ・児童は端末を自分で扱うことができている。学習に有効的に活用していく方法を考えていく必要がある。
- ・教職員に時間のゆとりがない。教材研究や自己研鑽に向かえる時間を確保していく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 81%以上にする。
- ・令和 7 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・令和 7 年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 99%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 71%以上にする。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 73%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和 7 年度授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 51%以上にする。
- ・令和 7 年度に第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 79%以上にする。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 74%以上にする。

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(78.1%) **80.9%**
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(1.29%) **2.38%**
- ・ 本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を98.5%以上にする。(98.3%)
95.7% 児童アンケート

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
現4年 1.01→0.98 現5年 0.92→0.94
現6年 1.04→0.90
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(68.1%)
72.0%
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。(72.0%) **69.2%**

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(なし) **5.6%**
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を78%以上にする。(77.3%)
86.4% 推定値
- ・ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。(72.8%)
75.4%

3 本年度の自己評価結果の総括

全体的な評価について、個々の取組内容に対する進捗状況においては、「目標どおりに達成した」と評価できる部分が多かったが、それらを受けた年度目標の数値をみると数値目標を達成できていない項目もいくつかあった。取組の数値目標の設定が実態に合っていないところがあったように思われる。

次年度に向けて、本年度の結果を踏まえて内容をもう少し分析したうえで、数値目標を見直し、基本的に今年度の取組内容をさらに継続していくことで数値目標を達成していきたい。

本年度の取組については、不登校児童への個々の関りを粘り強く継続してきた。高学年の児童については、改善が見られたが、1・2年生で新たな不登校の児童が増えた。今後も、担任だけでなく複数でかかわっていく必要があるため、次年度は対策会議にて、組織的に対応できる体制を構築し、粘り強くかかわっていく。

学力においては、話し合い活動を授業に積極的に取り入れてきたことにより、話し合いを通して自分の考えを深めたり、広めたりできていると思う児童の割合を増加させることが昨年度に引き続きできた。話し合うことへの児童の意識は年々高まってきている。さらに、深い学びにつながる話し合いの工夫が必要である。学年や教科に応じた話し合い活動を追求し、継続的な学力の向上につなげていきたい。

体力においては、運動が「好き」な児童の割合が高い。運動の楽しさを体感させていくことで、さらに肯定的にとらえる児童の割合を高めていきたい。

ICT 機器の使用頻度は年々高くなってきている。学年に応じて活用の幅も広がっている。しかし、故障の機器や使い方によって、使用率が達成できなかった。教員の研修を計画的に進めること、タブレットの学習での使い方の充実を図っていく。

教職員の教育環境の充実については、ほぼ数値目標に近づけることができた。今後、閉庁日に加え、日常的な時間の確保に取り組んでいく必要がある。

大阪市立鶴見小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標１ 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を８０％以上にする。（７８．１％） ８０．９％ ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（１．２９％） ２．３８％ ・本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９８．５％以上にする。（９８．３％） <div style="text-align: right;">９５．７％ 児童アンケート</div> 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】 学校全体でいじめについて考え、「いじめ防止」の意識を高める。		A1 B10
指標	学期に1回、「いじめ（いのち）について考える日」を設ける。	C1
取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】 新たに不登校児童を増やさないような取組を推進する。		B9 C3
指標	学期に1回校内研修会を実施し、それをもとに子どもの実態をとらえ、適切な支援を行っていく。	
取組内容③【1、安全・安心な教育環境の実現】 情報を取り扱うための判断力や心構えを身につけるようにする。		A2 B9
指標	年1回以上、各学年で情報モラル教育を実施する。	C1
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>①学期に1回、「いじめ（いのち）について考える日」を設け、学級でも「いじめ（いのち）」について取り組むことができた。意識が高まっているという意見が多い中、個々のつながりの中での関係で、いじめているという意識が低く、お互いの意識の差があるという意見もあった。</p> <p>②不登校に対する研修や生活指導部会などでの共通理解を通して、状況は把握できている。ただ、適切な支援を行えているのか、その支援方法が不登校の減少にはつながっていないのではないか。という意見もあった。</p> <p>③出前授業などを活用して、年1回以上情報モラル教育を実施することができている。</p>		
次年度への改善点		
<p>①意識向上のためにも、継続指導が必要。いじめの具体的な事例の周知、発生したときの対応など、学校全体での体制づくり、確認の場が必要。</p> <p>②不登校が改善されていないので、学校全体でどう取り組んでいけばいいか、もっと意見交換をする必要がある。ただ、学校に対する意識の変化もあり、学校側の働きかけがな</p>		

かなか響いていない家庭があり、対応が難しい部分もある。

③これからも各学年に応じた内容で実施していく。

(様式2)

大阪市立鶴見小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 現4年 1.01→0.98 現5年 0.92→0.94 現6年 1.04→0.90 ・ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(68.1%) 72.0% ・ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。(72.0%) 69.2% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】 国語に親しみをもち、読み取る力を育てる。 ----- 指標 週に1回、読書タイムを行う。	A1 B10 C1
取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】 外国語に親しむ機会を増やす。 ----- 指標 短時間英語学習で月に1回以上、図書教材やCD・DVD教材を活用する。	A3 B9
取組内容③【5、健やかな体の育成】 運動やスポーツを楽しみ、積極的に取り組むようにする。 ----- 指標 年に2回以上、運動の楽しさに関する啓発を行う。	A1 B11
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 週1回の読書タイムの時間がとれていた。また、図書委員会による取り組みの「読書記録」や、毎日の図書館開放、読み聞かせを行うことにより、読書に親しむことができた。 ② 短時間英語学習で月に1回以上、図書教材やCD・DVD教材を活用することができた。また、英語の本を読むことで、英語に親しむ機会を作ることができた。 ③ スポーツフェスティバルやびよんぴよんタイム、かけあしタイムの実施で体を動かす楽しさを感じることができた。	
次年度への改善点	
① 読みとる力につなげる指導の工夫が必要である。 国語の平均正答率をあげるためには、教員の授業力向上が必要不可欠である。来年度も国語に関する内容を年度目標に掲げるならば、国語を一人一授業として行うべきではないか。	

- ②短時間英語を Dream などでは実施したが、図書教材や CD 教材の活用が十分にできなかった。
週 1 回イングリッシュデーを作り、朝や帰りのあいさつを英語で行い、より親しめるようにする。
- ③これからも指導を継続し、加えてスポーツフェスティバルの実施種目のアンケートをとり、児童の意見をもとに決定するなどして、新しい運動も取り入れていく。

(様式2)

大阪市立鶴見小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組まず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(なし) 5.6% ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を78%以上にする。(77.3%) 86.4% 推定値 ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。(72.8%) 75.4%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 「心の天気」を毎日入力することを手始めに、1人1台学習者用端末の活用を進め、情報活用能力や自己表現力の素地を養う。	B B10
指標 1人1台学習者用端末を毎日利用する。	C 2
取組内容②【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 充実した教育活動に向け、教職員が休養や自己研鑽できる時間を確保していく。	B B11
指標 ゆとりの日を週に1回設定する。	C 1
取組内容③【8、生涯学習の支援】 児童の知的好奇心に働きかけ、楽しみながら読書をする機会を増やしていく。	B B12
指標 学期に1回以上、読書を推進する取組を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①「心の天気」の入力が習慣づいてきたが、1人1台学習者用端末の稼働率は6割程度にとどまっている。授業での活用についても、調べ学習や発表ノート、プログラミング学習等で活用が進んできているが、活用頻度についてはまだばらつきが見られる。 ②ゆとりの日が計画通り実施され、早めに退勤することや休養にあてることができた。一方で、実際には仕事量が変わらないため、退勤できなかったり、仕事を持ち帰ったりしている現状がある。 ③読書タイムや図書委員会を中心に読書を推進する活動を行うことができた。その結果、本を読みたいという気持ちを持つ児童の割合が増えた。	
次年度への改善点	
①「心の天気」の毎日の入力をより確実にする。1人1台学習者用端末の効果的な活用方法について研修を行うとともに、ICT教育アシスタントと協力しながら授業で積極的に活用	

し、実践例の共有を図っていく。

②全体の仕事を削減し、休養や自己研鑽の時間をさらに確保していく。45分の休憩時間を取れるようにするなど、余裕をもって働くことができる環境づくりが必要。

③図書委員会だけではなく国語科などに関連付けて、より読書を推進する活動を引き続き行っていく。